

## エゾヒグマ館事故に係る対応状況等について

### 1 エゾヒグマの死亡事故について

とわ（メス2歳）とカステラ（オス0歳）は、展示用のメイン放飼場とサブ放飼場を交互に使い分けて飼育・展示していた。2つの放飼場は高さ約3.7mの鋼製柵で仕切っており、クマの入替えについては、1頭を屋内寝室に入れ、その間に鋼製柵に設けた「くぐり戸」を開閉し、移動させていた。

当日、サブ放飼場にいたとわがメイン放飼場に侵入し、カステラに襲いかかった。通報により駆けつけた飼育員が観覧を中止するとともに放水等により2頭を引き離しとわを室内に収容したが、カステラは死亡していた。

### 2 事故原因の調査結果について

鋼製柵はクマが乗り越えられない十分な高さがあり、クマが柵を登った形跡もなかった。「くぐり戸」は、遠隔でワイヤー操作により開閉し施錠する構造であり、当日も施錠は通常通り行っており作業手順に問題はなかった。

しかし、調査の結果から、「くぐり戸」の施錠を行っても鍵が正常に作動しておらず、動作不良をおこしていたことが原因であると判明した。

### 3 エゾヒグマ館の改修方針等について

「くぐり戸」について、鍵が確実に作動し、施錠状態を直接的に確認出来るよう設備の改修を行うとともに、併せて、安全対策としてクマが「くぐり戸」を押し上げられないような措置を施す。展示再開は改修工事の終了する3月の予定である。